

令和3年度 第2回西淀川区教育行政連絡会議事要旨（小学校）

日 時：令和4年2月28日（月）13:30～15:00

場 所：オンライン開催

出席者：（学校） 柏里小学校・野里小学校・姫里小学校・姫島小学校・福小学校・大和田小学校
川北小学校・佃小学校・香簀小学校・歌島小学校・出来島小学校・佃西小学校
御幣島小学校

（幼稚園） 姫島幼稚園

（区役所） 中島 区長・山本 副区長

横内 こども福祉担当課長・向井 保健福祉課担当係長

播谷 保健福祉課係員

（来賓） 中島 教育委員会事務局指導部人権・国際理解教育担当指導主事

○区長より開会の挨拶を行う。

○区役所より外国につながる子どもの教育施策について説明を行う。

○意見交換要旨

大和田小：今年度の1年生について、同様に日本語支援が必要な児童がいるか調査を行い、早くから日本語指導に結び付けた。また6年生でJSLを使用したケースもある。西淀川区は多くの外国につながりを持つ方が住んでおり、大和田地域はパキスタン等のムスリム圏の方が多く、ウルドゥー語などの通訳者を見つけることに苦労している。日本語で一般会話が可能であっても、教育制度になると通じないケースもあり、学校から保護者にアプローチをする際に通訳者が必要になると想定されるため、就学前を対象とした調査を行う際は、母語及び日本語能力の聞き取りを行うべきである。

指導部：指導部では幼稚園への通訳者派遣は一律で行っていない。ただし文部科学省から小学校・中学校だけでなく、幼稚園や高等学校への日本語支援が打ち出されつつあるので、モデルケースとして今年度に数園で通訳者派遣をモニタリングで実施している。幼稚園から小学校への引継ぎがとても大事と認識しているので、検討していきたいと思っている。区ごとに特性もあり、教育委員会だけでなく区役所からの手立てを行い、迅速に対応するのが良いと思う。教育委員会としてこの度の施策にモニタリングとして関わることが出来ないか検討する。

区：区役所が実施する際、母語等の聞き取りは行う。ただし、保護者へのアプローチを行い初期指導に至るまでは学校や教育委員会で担っていただきたい。

指導者：別の対応方法として現状行っているのが、幼稚園に在籍する外国につながる子どもの保護者に連絡がつかない場合は教育委員会より簡単な手紙を送付する、通訳者によりメールや電話等を行っている。各園では片言の日本語で対応いただき、ほんとに出来ない時に行っている。

姫島幼：現在もケースによっては小学校へ引継ぎを行っているが、どこまでの情報をどのタイミングで必要としているか把握していないので、区役所が入り連携をとり情報を共有出来るのは良いと思う。公立幼稚園と公立小学校とは現状で比較的密な連携をとれているが、公立以外にも連携をとれるようにする必要がある。

福小：子どもは日本語をある程度習得しているが、保護者に通じないことが度々ある。今は翻訳ソフトを使用しているが、カバー出来ない状況もあるので、指摘のあった母語や日本語能力を事前に共有されていると早くから準備が出来て助かる。

川北小：川北地域でも多くの外国につながる子どもがいるが、4月当初から日本語指導協力者派遣を活用することができるのか。4月は行事等も多い。

指導部：日本語指導協力者派遣とは日本語指導が必要とする小学校1年生から3年生を対象に週2回を1回当たり45分で合計25回行い、3～4か月かけて実施する指導制度。初期の日本指導を行う。新1年生については4月に行事等が多いため、急務を要する新1年生は5月ゴールデンウィークあたりに開始する。急務としていない際は2学期より開始している。

○区役所より区役所が実施する学校教育関連事業について説明及び来年度の事業についても協力をいただけるようお願いを行う。

○区役所よりブロック化による学校支援事業について説明を行う。

学校経営戦略予算次長枠との連携について説明及び来年度の次長枠の執行案を示し、全出席者から承諾される。

○意見交換要旨

姫里小：来年度の予算の活用につきましては、結果データの比較を行う等経年的な成長・分析を行うために毎年同じ事業を行えるようにしていただきたい。

区役所：指導計画上也継続的に行うことが大事となると区役所も思っており、今までの検定試験を行えるようにしていこうと思う。

大和田小：当校では英検 ESG を受けることが出来て良かったと思っている。パッケージとして取り組めること、今までの復習が出来る点に学習の理解の定着などのメリットがあり、来年度も英検 ESG を実施したいと思っている。

区役所：に～よん個別復習塾については来年度の実施事業者は今年度と同じく株式会社トライグループになった。チラシの作成も行っており、小学校6年生にまた配布いただきたい。受講生の感想をうかがうと勉強の仕方や時間の使い方が分かるようになったなどの声が多く、事業は学校の勉強を補う様になっている。

来年度の経営戦略予算の次長枠については漢字検定1学年か英検ジュニア・英検 ESG 2 学年を選んでいただけるようにする。

○歌島小よりブロック化による学校支援事業のアセスについて実施した所感をうかがう。

アセスは児童が学校内において適応度がどの程度か測るツールである。アセスを通すと先生が表面的に把握していない児童が困っている部分について把握出来る時がある。学級全体でも個別でも分析が可能であり、1クラス 30～40 分でデータを処理することが出来ることからとても実施しやすい。ただし、アセスだけを頼りにするのではなく、ツールの1つとして活用すべきである。学校に馴染めない児童は、教師にとって困った子どもと一括りに見えがちであるが、アセスを通すことで学校の中でどの部分に困り感があるのかと要因を探る等、考え方が変わるようになる。

○区役所より令和3年度の区民アンケート結果について共有を行う。

区民アンケートで、「西淀川区は教育環境や子育て環境が良いと思いますか」という質問に対して、18才未満の子を育てている世帯では約26%が否定的な回答をしている。その理由として学力が低いや治安が悪い等があり、連携して改善を図っていきたいと思う。

○区役所より令和4年度の学校協議会（会長との意見交換会）と教育行政連絡会の関連について説明を行う。

学校協議会と教育行政連会の体制及び役目を再共有した。昨年度の学校協議会会長との意見交換会での意見を紹介し、学校協議会においても意識して取り上げていただくよう依頼した。

以上